

理念体系

群馬銀行グループは2021年11月20日、「パーパス」を制定しました。多くの社会課題に直面するなか、「私たちは社会において何のために存在し、社会の未来に向けてどのような働きかけができるのか」という思いのもと、自分たちの存在意義を見つめ直し、パーパスとして定めました。パーパスを制定以降、その実現に向けた事業計画を策定し、持続的な企業価値をめざす「パーパス経営」を推進しています。

企業理念

「群馬銀行はどうあるべきか」
行内の価値観を表明した
普遍的な概念

地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です

お客さまとの創造的な関係を深めること これが私たちの仕事の原点です

よき企業人であるためによき市民であること これが私たちの活動の基本です

一人ひとりの顔が見える表情豊かな組織であること これが私たちの大切にしている企業風土です

パーパス

企業理念をもとに、
群馬銀行グループの強みを活かして
社会に何を働きかけていくかという概念

私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

〈パーパス制定の目的〉

判断軸の共有・一人ひとりの仕事のやりがい・ステークホルダーとの共感

めざす未来

パーパスに基づき
群馬銀行グループがめざす
未来の姿

地域社会と群馬銀行グループの持続的な発展

中期経営計画

パーパスに基づく「めざす未来」
を実現するためにどんなことに
取り組んでいくかを示す計画

Growth with “Purpose”

（計画期間：2025年4月～2028年3月）

■ 群馬銀行グループ「パーパス」

私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

■ 「つなぐ」力で

1932年に群馬大同銀行として誕生した私たちの原点は、お金の貸し手と借り手を「つなぐ」こと。すなわち、お金をお預かりし、それをお貸しして経済を循環させることであり、これからも私たちの主要な役割であり続けます。

さらに、お金（金融）だけではなく、地域・企業・人々を「つなぐ」ことや、私たちが持つサービスや情報などの資源を地域・企業・人々に「つなぐ」ことを通して、さまざまな価値と価値をつないだり、新たな価値を生み出したりすることが、社会から期待されていると考えています。

こうした社会からの期待に応えるために、これまでに培ってきた私たちならではの強みを活かしつつ、私たち一人ひとりが「つなぐ」ことに取り組んでいきます。

例えば、私たちのネットワークや情報力を活かして、私たちが持つ資源をお客さまに「つなぐ」ことで経営課題を解決したり、後継者が未定のお客さまに次世代の担い手を「つなぐ」ことでお客さまや地域の未来を持続的にしたり、世界の投資機会をお客さまに「つなぐ」ことでお客さまの未来を豊かで安心にする、といったことが挙げられます。ひとつひとつの「つなぐ」は小さなことかもしれませんが、たくさんの「つ

なぐ」が、やがて利根川のように大きな流れとなり、地域の豊かな未来につながっていきます。

■ 地域の未来をつむぐ

「地域」とは、私たちが本店を置く群馬県だけを表現するのではなく、私たちのネットワークがおよぶ地域や企業・人々といったステークホルダー全般を表現しています。

私たちが「つなぐ」力をもとに目指すべき「未来」は、経済的な豊かさだけでなく、地球環境の保全や、高齢化・人口減少など社会課題への取り組みを通じた持続可能な社会で

す。「つむぐ（紡ぐ）」という言葉は、繭（まゆ）から取出した繊維をより合わせて糸を作ることを意味しますが、私たちが本店を置く群馬県は、世界遺産である富岡製糸場に象徴される繊維産業を中心に発展してきた地域です。こうした郷土の歴史を大切にしつつ、地域の豊かな未来をつむいでいく存在でありたいと考え、「つむぐ」という言葉に思いを込めました。

私たち群馬銀行グループは、「つなぐ」力で、地域のみならず、豊かな未来をつむいでいきます。

（2021年11月20日制定）